

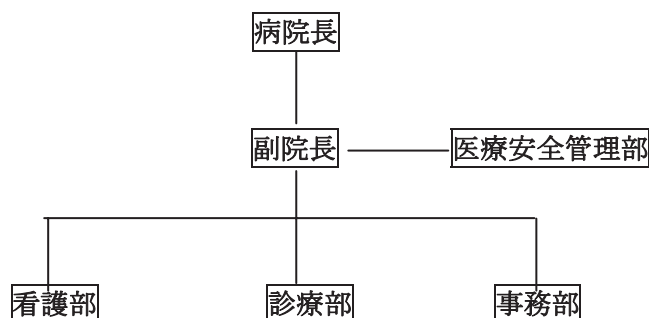
科 名：医療安全管理部



医療安全管理部長
高倉 賢二

医療安全は医療の本質にかかわる重要な課題である。病院理念の『私たちは患者さんとともに病気に立ち向かい、患者さんが安心できる医療を提供します。』を实践する上で、安全な医療の提供は基本となるものであり、医療安全の必要性と重要性を、組織としてまた職員個人自身の課題として認識する必要がある。

医療安全体制の確立を図り安全な医療の遂行を徹底するために、医療安全管理委員会、医療事故対策本部、医療安全管理室を設置して医療安全管理体制を整備している。個々の事例に対応するだけでなく、医療安全のためのマニュアル（以下「マニュアル」という。）も作成している。また、インシデント・アクシデント事例及び医療事故の評価分析によりマニュアル等の定期的な見直し等を行い医療安全管理の強化充実を図っている。



1. 医療安全組織図

1) 副院長直下に医療安全管理部を設ける。

2) 構成メンバー

医療安全管理部長 1名

医療安全管理副部長 1名

医療訴務専門職 1名

医療安全管理係長 1名

医療安全推進担当者（リスクマネージャー）各部署から1名 計55名

2. 医療安全に関する日常活動

1) 医療安全に関する現場の情報収集及び実態調査（定期的な現場の巡回・点検、マニュアルの遵守状況の点検）

2) マニュアルの作成及び点検と見直しの提言等

3) インシデント・アクシデントレポートの収集、保管、分析、具体的な改善策の提案、分析結果の現場

へのフィードバックと集計結果の管理

- 4) 医療安全に関する最新情報の把握と職員への周知
- 5) 医療安全に関する職員への啓発、広報
- 6) 医療安全に関する教育研修の企画・運営
- 7) 医療安全対策ネットワーク整備事業に関する報告
- 8) 医療安全管理に係る連絡調整に関すること

3. 業務実績

1) 医療事故に関する会議開催状況

- ① 拡大医療安全管理委員会 2件
- ② 医療事故本部対策会議 3件
- ③ オカレンス事例検討会議 20件
- ④ ハイリスク診療検討会議 11件

2) マニュアル、ガイドラインの作成

- ・心臓ペースメーカー患者における電気メス使用時の対応（2011年）
- ・抗血栓薬の適正使用と周術期の取り扱いに関するガイドライン（2011年）
- ・放射性医薬品を投与された患者の排泄物の取り扱い（2011年）
- ・二酸化炭素ポンプ管理方法（2011年）

3) インシデント・アクシデントレポート収集

- ・平成23年度報告件数
インシデント 3,128件
アクシデント 120件

- ・平成23年度職種別報告件数
看護部：2,960件 (91.1%)
医師：98件 (3.0%)

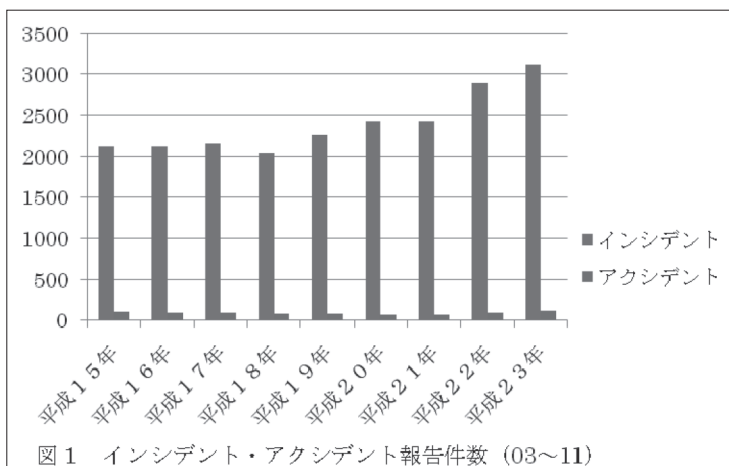


表1 職種別報告件数

看護部	2,960	91.1%
医師	98	3.0%
薬剤	36	1.1%
栄養	32	1.0%
検査	48	1.5%
放射線	32	1.0%
リハビリ	21	0.6%
臨床工学技士	6	0.2%
事務	15	0.5%
合計	3,248	

4) 平成23年度緊急コール件数

- ドクターハート・コール 32件
- ホワイトコード・コール 17件

5) 医療安全に関する活動及び情報提供

- ・医療安全管理委員会 1回/月 計12回
- ・医療安全推進部会 1回/月 12回 (平成24年度から「リスクマネージャー会議」に組織改編)
- ・診療科長会議、医局会、管理診療会議での事例紹介 (「本日の事例、本日の苦情」)
- ・医療安全管理室だより 1回/月発行

- ・ 事件事例の情報発信 計 10 回（二酸化炭素誤投与、ダイアライザー取り違い等）
- ・ 救急対応物品整備：外来患者緊急時の物品の配置整備
- ・ 医療消耗品整備：輸液システム、経管栄養物品、血糖測定器の更新
- ・ 誓約書の作成、2011 年から使用開始

6) 医療安全に関する教育研修

抗血栓薬適正使用と周術期の取り扱いについて 159 名

クレーム対応研修 111 名

転倒防止研修 第 1 回 112 名

第 2 回 94 名

7) 医療安全に関する講義

新採用者研修、幹部看護師任用候補者研修、スペシャルメディカルクラーク、看護学校
近畿ブロック医療安全管理者研修